JANSI-10年戦略

（2024～2033年度）

JANSI
Japan Nuclear Safety Institute

～発電所パフォーマンスの向上に向けて～

一般社団法人 原子力安全推進協会

10年戦略について

JANSIは、**「福島第一事故を二度と起こさない」**とする**原子力産業界の総意**のもと、産業界**自主規制を実現**するため、2012年11月に設立されました。

JANSIは、**自主規制組織**として**『世界最高水準の安全性の追求（～たゆまぬエクセレンスの追求～）』**をミッションとして掲げ、事業者の自律的継続的改善の取組みを独立した立場で牽引・支援してきました。当初、自主規制組織の独立性に対して、双方に誤解が生じ、コミュニケーションが不足していましたが、徐々に産業界自主規制のあるべき姿に共通認識が醸成されてきました。

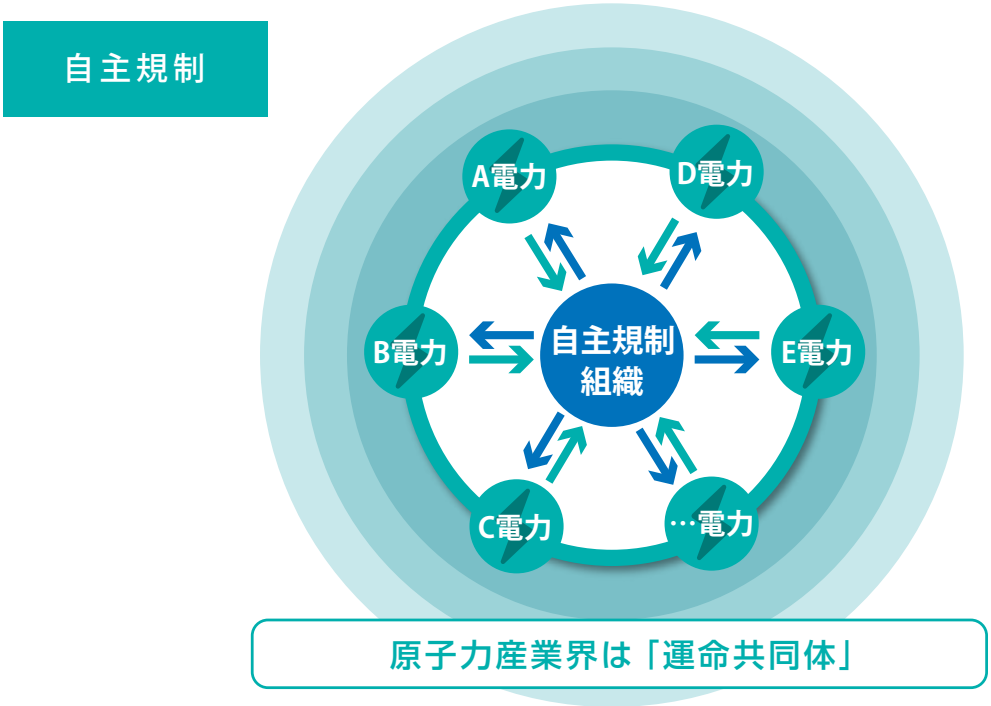
2019年3月、JANSIと事業者が目指す将来ビジョンを設定し共有するとともに、その実現に向けた道筋を明確にした長期戦略として、**『JANSI-10年戦略』を制定**しました。本戦略は、10年間に亘る環境変化を考慮し、国内外の有識者のご意見も参考にしつつ、事業者とJANSIが一体となり検討を進めてきたものです。

制定後5年を迎え、以下の環境変化などを反映し、**2024年3月、10年戦略を大幅に見直し**ました。

①エネルギー安全保障、グリーントランスフォーメーションなどの社会環境の変化（原子力への期待の高まり）
②JANSIが実施するピアレビューがWANOと同等であることが世界で初めて認められたことなど、10年戦略の進展
③米国における先進事例

事業者とともに本戦略を道標として、さらに高みを目指す将来ビジョンの実現に向け、事業者と一致団結して取組んでいきます。

なお、本戦略は長期に亘るものですので、定期的に活動の有効性、経営環境の変化等を確認・評価し、必要に応じて変更していきます。



「自主規制」とは、事業者が法的な規制基準を満足することに留まらず、自らをそして互いを律し、自律的・継続的に安全性向上に取り組み、エクセレンスを追求すること。

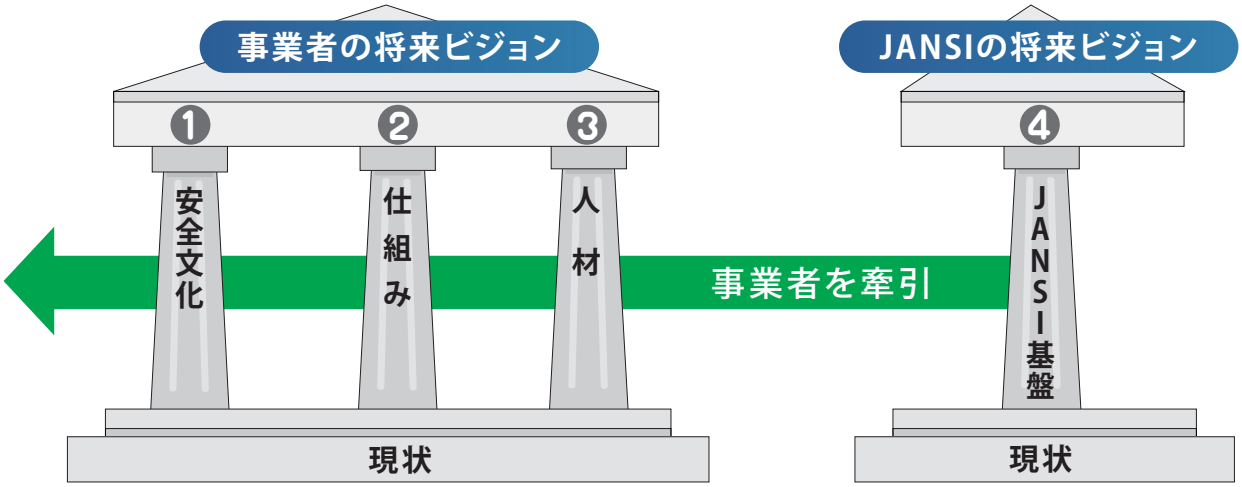
「自主規制組織」は、事業者の自主規制が効果的、効率的に進むよう、独立性を堅持しつつ事業者を牽引する組織。

将来ビジョン

- 事業者は、自主的継続的安全性向上の取組みを定着させることにより、**世界最高水準の安全性・信頼性を達成し、その状態を維持、継続**している。
- JANSIは、**世界のエクセレンスの権威**として、独立した立場から、事業者を牽引している。

将来ビジョンを達成する重要な要素（重要成功要因）

1. 健全な安全文化の醸成
2. 自主的継続的改善の基盤プログラムの運用
3. 事業運営に必要な人材の確保・育成
4. 自主規制組織としての機能・意識・技術力などの基盤の充実・強化及び効果的・効率的な活動の実施



主要アクションの展開

今後10年間において、重要成功要因を実現するためのJANSIの事業・活動を主要アクションとして設定しました。

主要アクションの事業・活動については、従来から継続実施している「ベース業務」と「戦略業務（海外の先進的取組み、事業環境の変化、活動の進展等を踏まえて主要アクションを戦略的に強化していく業務）」に区分し、前者をグレー、後者を茶色で示します。

重要成功要因 1 健全な安全文化の醸成

主要アクション

(1)自主規制の主体としての事業者意識向上の牽引

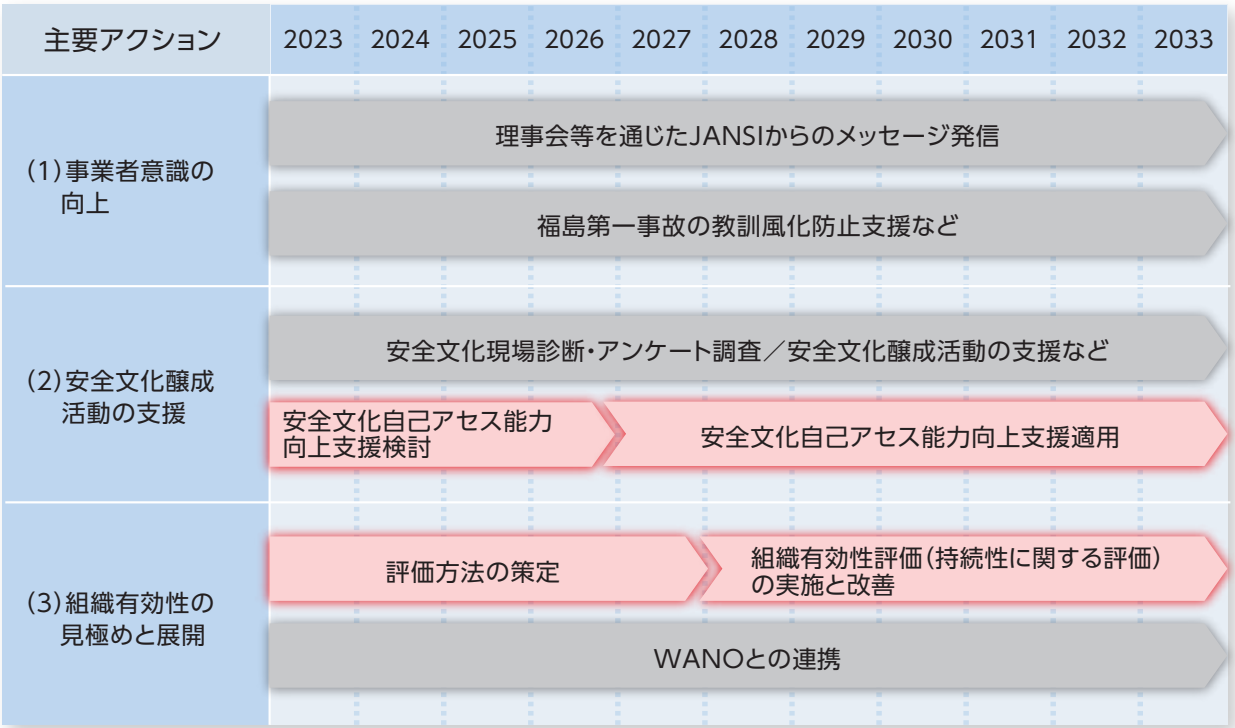
- 新任CEO/CNOとの直接面談等を継続し、自主的継続的安全性追求を促し、事業者トップから安全最優先の強いコミットメントを引き出す。
- 事業者に対して、福島第一事故経験者の講演やビデオ教材の提供などを着実に継続し、福島第一事故の教訓反映及び風化防止に係る事業者の取組みを支援する。

(2)安全文化醸成活動の支援

- 事業者本店を含めた発電所等の安全に寄与する組織文化の向上のため、安全文化について、思慮深い洞察を提示する。また、事業者の自己アセス能力の向上に向けた取組みを進める。

(3)高いパフォーマンスを維持・継続する組織有効性の見極めと展開

- 持続性の追求については、組織有効性評価において先進的な取組みを日本にも取り入れる方向としつつ、日本固有の事情に応じた適切なアプローチを構築し、運用するとともに、WANOと連携した取組みを進める。



※ベース業務はグレー、戦略業務は茶色で示す。

重要成功要因 2 自主的継続的改善の基盤プログラムの運用

主要アクション

(4)世界のエクセレンスの追求

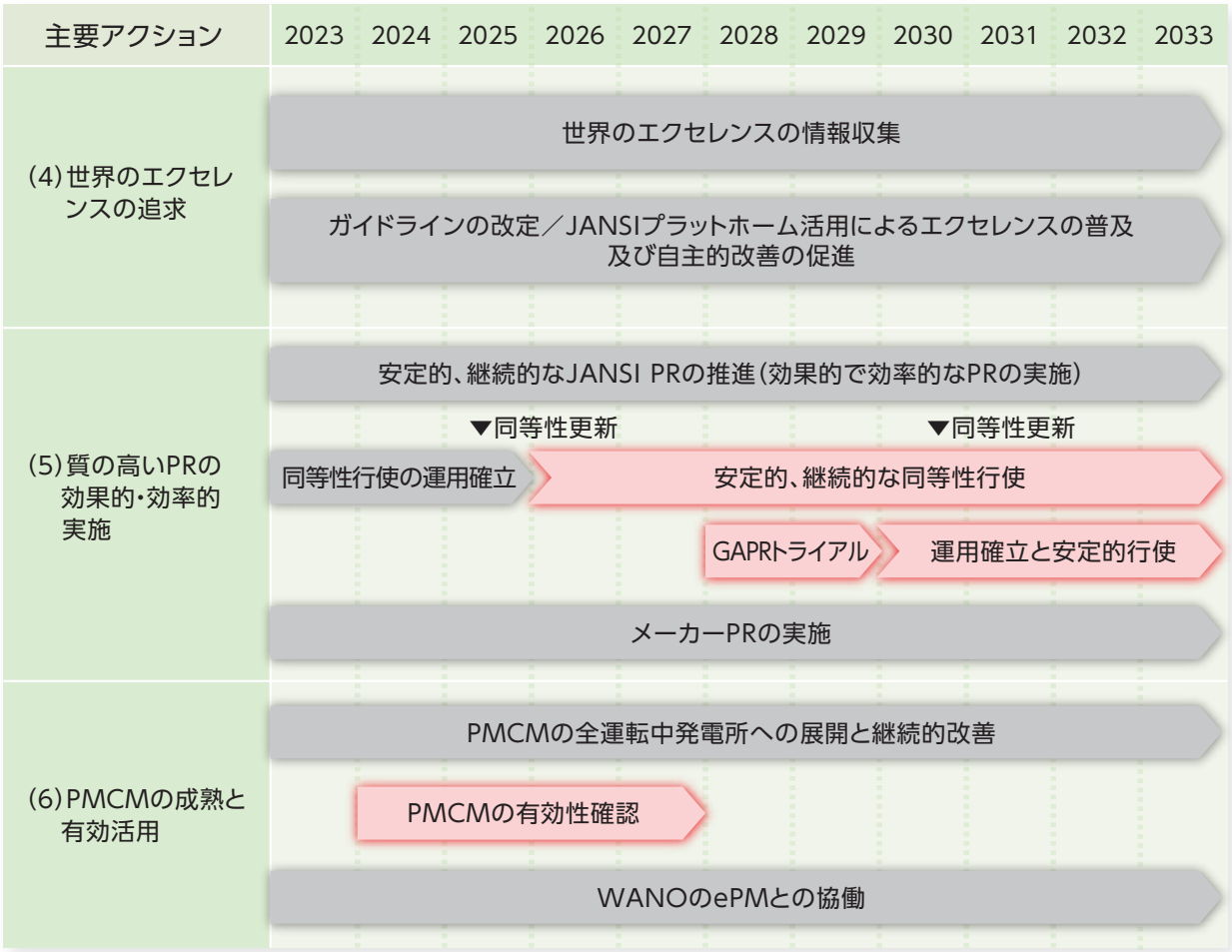
- 世界の運転経験やエクセレンスを常に把握し、ガイドラインなどを改定するとともに、事業者と共有することにより自主的改善を促し、産業界と協働できる自主的改善を進める有効なプラットフォームを事業者に提供する。

(5)質の高いピアレビュー(PR)の効果的・効率的実施

- 国際水準の質の高いJANSIピアレビューを1回/4年の頻度で実施する。
- ピアレビュー遂行能力を向上し、WANO同等性を維持・更新する。また、年1回程度、同等性を行使し、WANOに代わってWANOピアレビューを代替する等、WANOとの協業を一層強化する。
- PMCMの有効性確認などを踏まえて、模範的発電所に対する「グレーデッドアプローチ・ピアレビュー(GAPR)」を導入する。

(6)PMCMの成熟と有効活用

- 事業者が自主的継続的に発電所パフォーマンスを把握し、劣化傾向を早期に検知し速やかな対応を行うために、PMCMの技術を発展・成熟させ、その有効性を確実なものとする。
- ピアレビューや継続的な発電所パフォーマンス監視などの「JANSIの活動」と「WANOの活動」が調和し、独立しつつも全体として効果的で効率的な価値ある活動を事業者に提供する。



※ベース業務はグレー、戦略業務は茶色で示す。

重要成功要因 2 自主的継続的改善の基盤プログラムの運用

（つづき）

主要アクション

(7)発電所総合評価の継続的改善

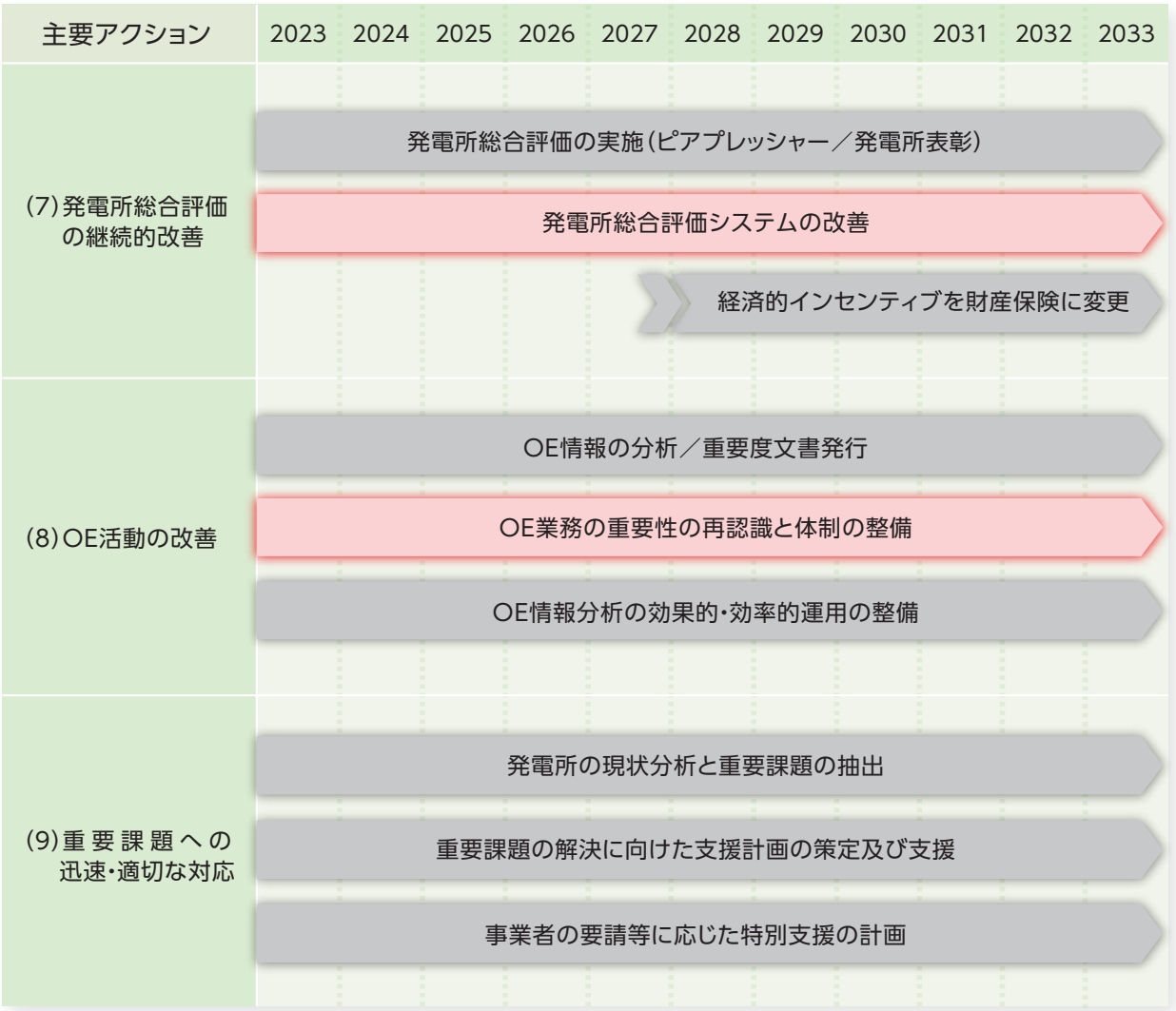
- 発電所のパフォーマンスを総合的に評価し、ピアプレッシャーとインセンティブの実効性を向上させ、仕組みを機能させる。

(8)OE活動の改善

- 産業界のOE業務への重要性を再認識させ、必要な体制を整備し、事業者の自主的な予防措置を促すとともに、分析能力を向上させる取組みを進める。

(9)重要課題への迅速・適切な対応

- 発電所等のパフォーマンスなど重要度、緊急性の高い課題や産業界が抱える共通課題を抽出し、他の支援組織と役割分担し、安全性の影響を確認しつつ効果的・効率的に課題解決を図り、産業界の安全性向上に資する。
- 事業者の要請及び産業界としての重要性に応じて、特別支援を計画する。



※ベース業務はグレー、戦略業務は茶色で示す。

重要成功要因 3 事業運営に必要な人材の確保・育成

主要アクション

(10)リーダーシップ研修・セミナー等の充実と実施

- 自主的継続的なパフォーマンス改善を牽引するリーダー育成のためのリーダーシップ研修などの研修・セミナーを、改善しつつ継続実施する。
- JANSIが提供する研修・セミナー等を事業者が階層毎に効果的に活用できるよう、研修体系を整備するとともに、事業者ニーズに合わせたプログラムを提供する。
- SATの導入支援から、事業者の教育訓練の実効性が上がっていることを確認・助言する支援にシフトする。

※ベース業務はグレー、戦略業務は茶色で示す。

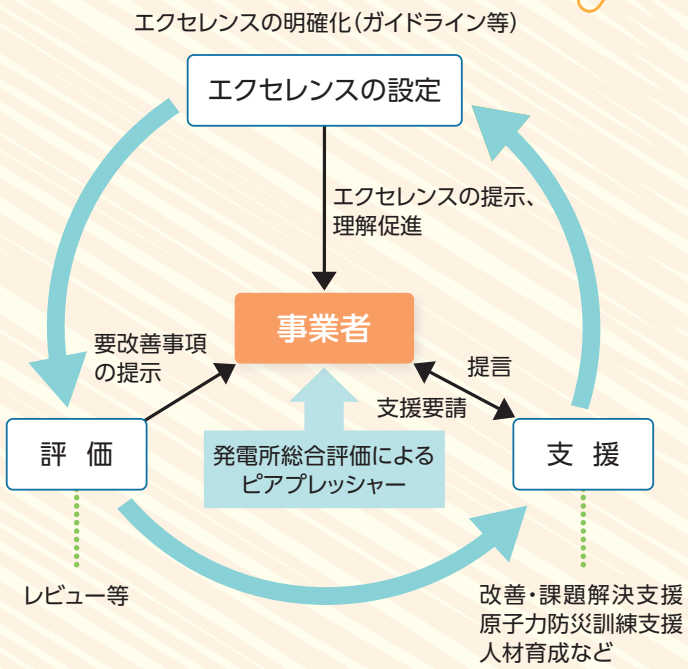
COLUMN コラム

JANSIの活動サイクル

JANSIの役割を果たしていくため、JANSIは最新のエクセレンスを把握し、それをベースとしたエクセレンスの設定と事業者に対する評価および支援のサイクルを、効果的かつタイムリーに回していく。

このために、エクセレンスの設定と評価のレベルアップに継続的に取り組み、適切なエクセレンスの設定と効果的な評価を行う。事業者に対する評価の結果や、エクセレンスとのギャップに対する事業者の改善の取組みや支援要請に対して、積極的に支援・指導することにより、発電所パフォーマンスの向上に貢献する。

また、その活動が公正かつ有効であることを通じて、ステークホルダーの信頼を得る。



重要成功要因 4 自主規制組織としての機能・意識・技術力などの基盤の充実・強化及び効果的・効率的な活動の実施

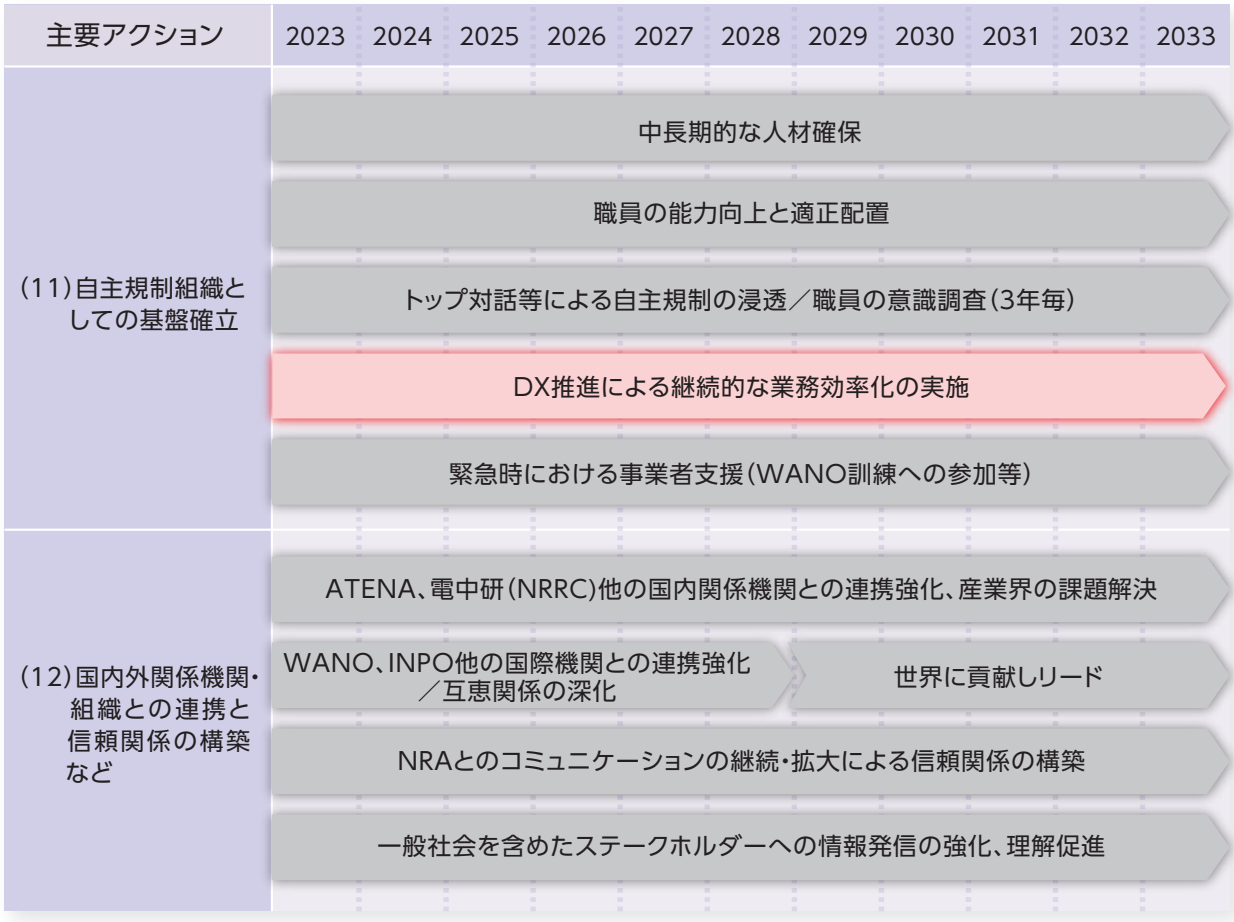
主要アクション

(11)自主規制組織としての基盤確立

- 必要な人材を確保するために、取り巻く環境に柔軟に対応しつつ、シニアの活用やDX推進等自助努力する。また、事業者とのコミュニケーションを充実し、事業者による従業員の出向・派遣の促進に向けた実効的なアプローチを強化する。
- 事業者によるJANSI職員の技術力向上への協力を得つつ、育成プログラムを的確に展開し、適正に育成・配置する。
- 設立の原点である福島第一事故の教訓を忘れないために、福島第一事故風化防止活動を継続的に実施する。
- 自主規制組織としての人・技術に加えて、組織、文化、体制、仕組みなどの基盤を充実・強化する。

(12)国内外関係機関・組織との連携と信頼関係の構築など

- ATENA、電中研(NRRC)他の国内関係機関と連携し、産業界が抱える重大かつ緊急性を要する課題を抽出し、自主規制の枠組みの範囲において、それぞれが役割分担し、課題解決を図り、産業界の安全性向上に資する。
- WANO、INPO他の国際機関との一層の交流を図り、ピアの協力関係を構築するとともに、海外のエクセレンスの日本への架け橋となる活動を展開する。
- 自主規制活動と規制活動が相乗効果を上げるため、NRAとOE情報意見交換などのコミュニケーションを継続・深化させることにより、自主規制の取組みの理解向上を図る。
- 一般社会を含めたステークホルダーに自主規制の取組みを継続的に発信し、理解促進、信頼関係の醸成に向けた活動を展開する。



※ベース業務はグレー、戦略業務は茶色で示す。

至近に対処すべき重要課題

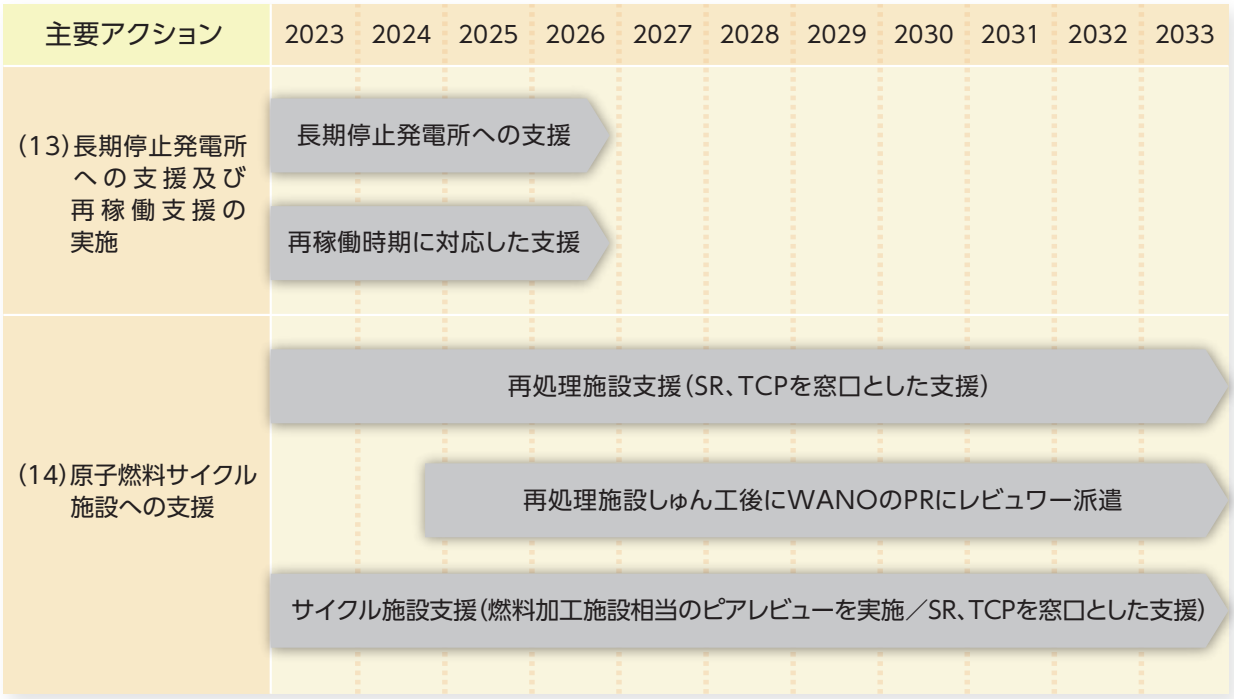
主要アクション

(13)長期停止発電所への支援及び再稼働支援の実施

- 特別な訓練・研修の提供など、再稼働済み発電所との連携を強化し、長期停止中で運転経験が極めて乏しい要員への対応を強化した産業界が一体となった支援を提供する(停止期間中及び再稼働時)。

(14)原子燃料サイクル施設への支援

- 原子燃料サイクル施設の安全・安定操業に向け、WANOピアレビューに参加するなど再処理施設への支援を提供するとともに、JANSIの強みである発電所運営の知見・経験を生かした支援を事業者と連携して提供する。



※ベース業務はグレー、戦略業務は茶色で示す。

運転責任者判定試験・認定業務※

事業者からのより高い独立性及び運用の公平性・透明性が求められるため、上記の主要アクションとは切り分けて、JANSI 事業・活動の一環として実施する。

※原子力安全推進協会では、原子炉設置者から判定機関の指定を受け、原子力発電所運転責任者の判定に係る規程(JEAC4804)及び原子炉設置者の合否判定規程に整合した運転責任者判定業務を実施しています。

略語・用語解説

活動関連

ピアレビュー(Peer Review)

専門家が発電所などを訪問し、その専門的立場から事業所の安全性(原子力安全、放射線安全、労働安全等)と信頼性の確保に関わる活動をレビュー(評価)することにより、事業者の安全性と信頼性を向上させることを目指すもの。原子力産業界ではWANOやJANSIが発電所に対して一定の頻度で実施。

ピアプレッシャー(Peer Pressure)

原子力産業界は「We are in the same boat」、運命共同体であるとの考えのもと、ピアレビューを通じ、さらなる改善事項の抽出・対応、その結果を踏まえ、事業者全体の安全性向上に関する議論を行う相互牽制による安全性向上に向けた仕組み。

PMCM(Performance Monitoring & Continuous Monitoring)

発電所パフォーマンス情報の日常的把握によって、劣化傾向の早期検知と改善に向けたタイムリーな支援を行うことを目的とした、事業者とJANSI(WANOとの協働)の活動。

OE(Operating Experience):運転経験

SAT(Systematic Approach to Training):体系的教育・訓練手法

業務分析から始まり、必要な知識・技能等をリストアップして、訓練プログラムの設計から効果の評価までを体系的に行うもの。

組織関連

CEO(Chief Executive Officer):最高経営責任者
CNO(Chief Nuclear Officer):原子力部門の責任者
WANO(World Association of Nuclear Operators):世界原子力発電事業者協会

チェルノービリ原子力発電所の事故を契機に、世界の原子力発電事業者が、相互の切磋琢磨と交流により原子力発電所の運転の安全性と信頼性を高めることを目的に1989年に設立された世界的組織。

INPO(Institute of Nuclear Power Operations):米国原子力発電事業者協会

1979年3月に発生したTMI(スリーマイルアイランド)原子力発電所事故を教訓として商用原子力発電の高度の安全性と信頼性を推進する目的で、米国の原子力発電事業者により1979年に設立された事業者の自主規制組織。

ATENA(Atomic Energy Association):原子力エネルギー協議会

原子力産業界の自律的かつ継続的な取組みを定着させていくことを目的に、原子力産業界全体の知見・リソースを効果的に活用し、規制当局等とも対話を行いながら、効果ある安全対策を立案し、原子力事業者の現場への導入を促す新たな組織として、2019年に設立。

NRRC(Nuclear Risk Research Center):電力中央研究所　原子力リスク研究センター

原子力事業者が原子力発電の利用における安全性をたゆまず向上させていく取組みに必要となる技術やノウハウを開発するための研究開発拠点として2014年に設立。

NRA(Nuclear Regulation Authority):原子力規制委員会(日本)

自主規制の考え方について

『船の舵』のモニュメント
（JANSI 13階受付壁面に展示）

原子力産業界がめざす自主規制は、事業者が主体となり、JANSIと一体となって原子力安全の向上に取り組む「共同体による自主規制」です。

それは、船の舵に似ています。

舵のグリップは事業者、その輪の中央にJANSI、そしてこれらがしっかりと組み合わされた姿は、「互いに緊密に対話し、信頼し尊敬しあう自主規制共同体」を象徴しています。

私たちはこの共同体を大切に、着実に育てていきたい、と願っています。

船の舵はまた、原子力産業界が運命共同体であることを表すメタファー、“We are in the same boat”にもつながります。

私たちの乗る船は、決して海図のない航海を進むものではありません。

「原子力安全のエクセレンスを追求する」
ー私たちはこのゆるぎない針路を共有し、船の舵をしっかりと操縦していきます。

私たちは確信しています。いかなる困難にもひるむことなく、世界最高水準のエクセレンスをめざし、挑戦してやまない自主規制共同体の意思とプロフェッショナリズムこそが、原子力産業界の希望の未来を開いていくことを。

船の舵は、そんな私たちの信念と決意のメッセージでもあるのです。

JANSIについて

- 名　　称：一般社団法人 原子力安全推進協会
- 所 在 地：〒108-0014 東京都港区芝5丁目36番7号 三田ベルジュビル14階
  TEL 03-5418-9312　FAX 03-5440-3606　URL https://www.genanshin.jp/
- 設　　立：2012年11月15日
- 役職員数：約190名
- 会　　長：ウィリアム・ウェブスター Jr
- 理 事 長：加藤　功

2026年4月発行

JANSI
Japan Nuclear Safety Institute